



Sametime 3.0 iSeries 導入と構成

© 2003 IBM Japan Systems Engineering Co., Ltd.



特記事項


当資料で解説される項目の更に詳細な説明は、製品から提供されるマニュアル、オンラインヘルプ、Web上の情報を参照してください。

当資料は、2003年4月現在のIBMその他の製品情報に基づいて作成されております。この資料に含まれる情報は可能な限り正確を期しておりますが、日本アイ・ピー・エム株式会社による正式なレビューは受けておらず、当資料に記載された内容に関して日本アイ・ピー・エム株式会社および日本アイ・ピー・エム システムズ・エンジニアリング株式会社が何ら保証をするものではありません。したがって、この情報の利用またはこれらの技法の実施はひとえに使用者の責任においてなされるものであり、当資料の内容によって受けたいかなる被害に関して一切の保証をするものではありませんのでご了承ください。

日本IBMシステムズ・エンジニアリング株式会社
サーバーシステム部

商標

以下の用語は、アメリカ合衆国、あるいは他国、あるいは両国でのIBM Corporationの商標です:

- AS/400
- AS/400e
- DB2
- IBM
- MQSeries
- Operating System/400
- OS/400
- SanFrancisco
- stylized 
- WebSphere
- 400
- iSeries
- eServer

以下の用語は、アメリカ合衆国、あるいは他国、あるいは両国でのLotus Development社の商標です:

- Domino
- Domino.Doc
- LearningSpace
- Lotus
- QuickPlace
- Sametime

JavaとすべてのJavaをベースとする商標およびロゴは、アメリカ合衆国、他国、あるいは両国のサン・マイクロシステムズ社の商標または登録商標です。

Microsoft Windows, Windows NT, およびWindowsのロゴは、アメリカ合衆国、他国、あるいは両国のマイクロソフト社の商標です。

他の会社、製品、およびサービス名は、その会社の商標あるいはサービスマークかもしれません。

このプレゼンテーションに含まれるサードパーティーに関連する題材は、これらのサードパーティーから得られた情報に基づいています。これらの情報の正確さの確認のための、いかなる努力もなされていません。このプレゼンテーションは、いかなるサードパーティー製品またはサービスの、IBMによる推薦あるいは指示を表したり、ほのめかすものではありません。

アジェンダ

第1章 Sametime概要

第2章 Sametimeの導入

第3章 Sametimeの管理

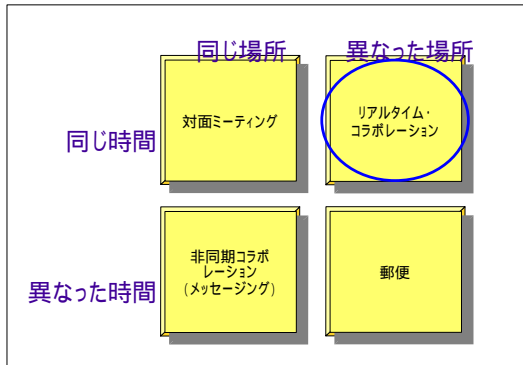
第4章 クライアントの使用

参考情報

第1章 Sametime概要

Blank Page

リアルタイムコラボレーションとは



時間と距離の関係で見たコラボレーションの形態



リアルタイム・コラボレーションのメリット

Notes:リアルタイムコラボレーションとは

リアルタイム・コラボレーションとは、一言で言えば、2人以上の複数の人の参加による手軽な、ライブでのコミュニケーションです。異なった場所に2人の人がいると仮定しましょう、この2人がコミュニケーションをするためには技術の力(たとえば電話など)が必要になります。簡単のために、身の回りで一般的に利用しているコミュニケーション手段を考えてみましょう。左図はコラボレーション形態のわかりやすい関係を示しています。このような「異なった場所」と「同じ時間」で行われるリアルタイム・コラボレーション技術のメリットは次の3つにまとめることができます。

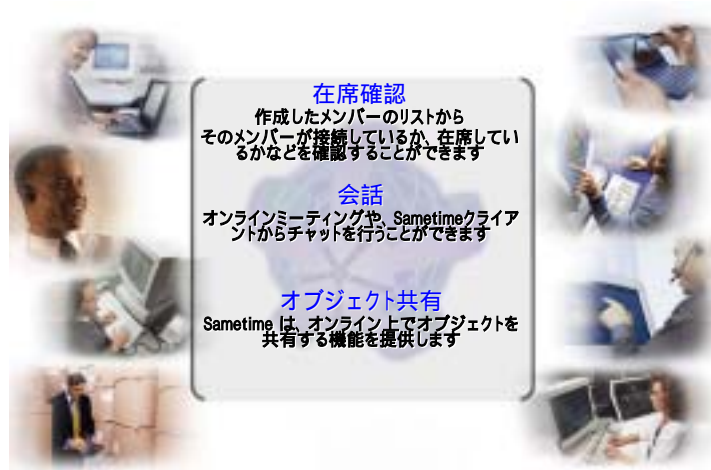
即時性:リアルタイム・コラボレーションはチームの意思決定を迅速に、そして人と保有するスキルをすばやく見つけ出すことができます。

アプリケーションに組み込むことで情報の提供者や参照者などのチャットや会話が可能になります。

広がり:リアルタイム・コラボレーションは、情報と知識の伝達をより良くすることで、分散したチームにおける作業の不利益を最小限に抑えることができます。

深さ:リアルタイム・コラボレーションは、電話での会話による自然な流れに、動画とデータの付加価値を追加することで、新たな形態のコミュニケーションを提供します。

Sametimeが提供する3つの機能



Notes: Sametimeが提供する3つの機能

リアルタイムコラボレーションを実現するために、Sametimeは3つの機能を提供します

在席確認

Sametimeはユーザーの応答可能性をサーバーに報告する機能を持っています。あるユーザーがオンラインかどうか、コンピュータから離れていないかどうか、オンラインでも応答できる状態のあるかどうかをサーバーに報告します。これが在席確認です。

会話

在席確認機能により、チャットやインスタント・メッセージングが突然のオンラインでの会話を廊下での立ち話のように、「今、いいですか？」から自然に始めることができます。そして文字チャットで不十分と判断したなら、Sametimeの音声・ビデオコミュニケーション機能が、文字チャットを補完してより個人的な生産性の高いツールとして提供されます。

オブジェクト共有

Sametime は、オンライン上でオブジェクト(アプリケーションやプレゼンテーション、文書や図面)を共有する機能を提供します。ユーザーは、オンラインミーティングを前もって予約するか、即座にインスタント・メッセージングから直接スクリーン共有かホワイトボード共有に移ることができます。

Sametimeでは、他人のデスクトップ上のワープロ、表計算、CAD、プロジェクトマネジメントソフトのような、どんなプログラムでも他のユーザーが共有できるようになります。他の参加者は共有される内容を会議に参加して見るために、同じソフトウェアがインストールしてなければいけない必要はありません。必要に応じて、アプリケーションのコントロールを行き来させたり(所有者がいつでも主導権を握ることができる)することもできるようになります。

Sametimeサーバー

Lotus. Sametime

Dominoサーバーにアドオン
標準プロトコルに対応
インターネットとの接続
強固なセキュリティ
ディレクトリサービス
マルチサーバー構成
簡易なサーバー管理

Notes: Sametimeサーバー

SametimeサーバーはDominoサーバーにアドオンする形で構成されます

DominoサーバーをSametime用に構成する必要があります

標準プロトコルに対応

H.323 音声・ビデオ

T.120 ミーティングサービス

NetMeetingでの使用をサポートしております

インターネットとの接続

SametimeのサービスはHTTPトンネリング機能によりポート80でのトンネリングが可能

例外：双方向でのオーディオ、ビデオのみは別途80以外のポートを使用

強固なセキュリティ

Sametime全てのサービスでデータを暗号化可能

ディレクトリサービス

ドミノディレクトリ、LDAPをサポート

マルチサーバー構成

通信データ量を低減するため、マルチサーバー構成でネットワークを構築することが可能です。

コミュニティーサービスおよびミーティングサービスはサーバー間で帯域の最適化が可能です。しかしながらマルチメディアサービスはミーティングが開催されているサーバーにクライアントが直接接続されます。

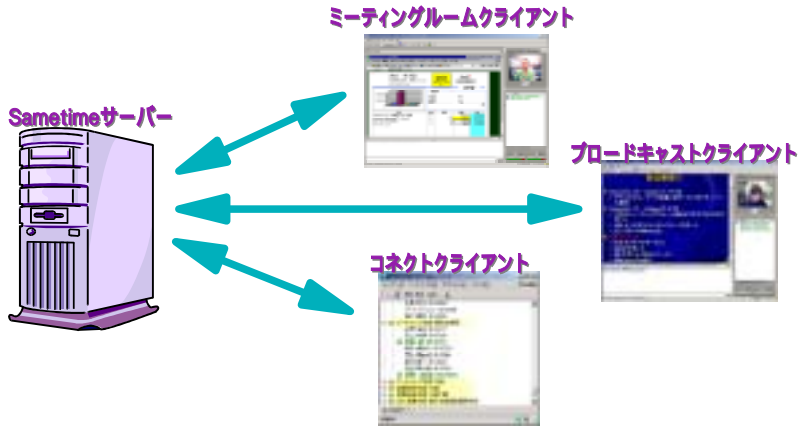
簡易なサーバー管理

Webブラウザからほとんどの管理が可能です

H.323: IPベースでのネットワーク上での音声、映像、データなどの通信を行うための規格

T.120: マルチメディア・データ会議のための通信プロトコル、ホワイトボードや、ファイル転送などの機能を提供する

Sametimeのクライアント群



Notes: Sametimeのクライアント群

Sametime コネクトクライアントはインストールするものと、JAVAアプレットを用いるばあいの2種類があります

アプレットの場合は会議参加時に自動的にソフトウェアをダウンロードします

次回からはキャッシュされたものを使用します。

アプレットを用いるメリットとしては、サーバー側でメンテナンスした場合はダウンロードされるソフトウェアは自動的に最新のものが使用することができます。

クライアントインストール・バージョンアップ不要

管理工数の大幅な削減

ミーティングルームクライアントは、双方向の各種コラボレーション機能を実装しています

チャット

音声

ビデオ

在席確認

アプリケーション共有

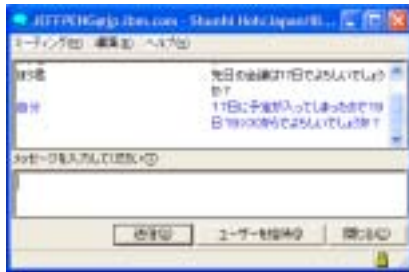
ホワイトボード

ブロードキャストクライアントは単方向でのコラボレーション機能になります

片方向のみのデータ配信

利用帯域の低減

Sametimeコネククライアント



会話機能

アウェアネス機能



15

The next generation iSeries...simplicity in an on demand world

© 2003 IBM Japan Systems Engineering Co., Ltd.

Notes: Sametimeコネククライアント

Sametimeコネククライアントはアウェアネス機能と会話機能を実装します

- アウェアネス機能
- 在席状態の確認
- パデイスリスト
- 社員名簿と同期を取るなどのカスタマイズ
- サーバーにリストを保存
- 異なる端末間でも同じリストが利用可能

会話機能

- インスタントメッセージング
- インスタントミーティングの開始(Sametime ミーティングルームクライアント機能を起動、利用するツールは選択可能)

Sametime クライアントパッケージャー

- Sametimeコネククライアントの設定を管理者が行い、ユーザーに配布

16

The next generation iSeries...simplicity in an on demand world

© 2003 IBM Japan Systems Engineering Co., Ltd.

ミーティングの構成

コラボレーション :MRC(ミーティングルーム・クライアントを使用)...双方向

- 小さなワークグループとブレインストーミングセッション
- 2 ~ 5人の参加者
- 複数のプレゼンター
- 全員が発言可能



プレゼンテーション :MRC(ミーティングルーム・クライアントを使用)...双方向

- プレゼンテーション、セミナー、組織的なミーティング
- 10人以上の参加者
- 数人のプレゼンター
- 数人の発言者



ブロードキャスティング :BC(ブロードキャスト・クライアントを使用)...片方向

- 多数の参加者
- 数人のプレゼンター
- 視聴のみ可能な多数の参加者
- スケーラビリティの拡張(低帯域でも使用可)



Notes:ミーティングの構成

コラボレーションはミーティングルームクライアントを使用します。少人数の参加者による双方向コミュニケーションが可能です

- 小さなワークグループとブレインストーミングセッション
- 2 ~ 5人の参加者
- 複数のプレゼンター
- 全員が発言可能

プレゼンテーションはミーティングルームクライアントを使用します。数人のプレゼンターが発言、プレゼンの提供を行い、参加者はそれを閲覧することができます

- プレゼンテーション、セミナー、組織的なミーティング
- 10人以上の参加者
- 数人のプレゼンター
- 数人の発言者

ブロードキャスティングはブロードキャスト・クライアントを使用します。基本的にプレゼンターは数名で、他の人は視聴者になります

- 多数の参加者
- 数人のプレゼンター
- 視聴のみ可能な多数の参加者
- スケーラビリティの拡張
- 低い帯域幅
- マルチキャストが可能なネットワークへのサポート
- 参加者毎のオーバーヘッドが小

Sametime3.0のセキュリティ

- Sametimeで使用されている認証のタイプ
 - ◆ ベーシック認証
 - ◆ トークンによる認証
- ネットワーク上の暗号化機能
 - ◆ SSL方式
 - ◆ 128bit RC2方式
- そのほかのセキュリティ対策
 - ◆ ミーティングパスワードの設定
 - ◆ ミーティングの非表示
 - ◆ Anonymousユーザーのアクセスの設定

Notes: Sametime3.0のセキュリティ

Sametimeで使用されている認証のタイプ

ベーシック認証

ユーザー名とパスワードによる認証です。ドミノのACLとサーバー文書のセキュリティ設定でコントロールします。ユーザーははじめにベーシック認証を受ける必要があります。

トークンによる認証

JAVAアプレットで使用する認証です。トークンを使って認証を受けることで、そのトークンを用いてミーティングのサービスなどを受けることができます。また、シングルサインオンの機能もトークンによる機能の一つです。

ネットワーク上の暗号化機能

暗号化の機能として、SSL方式と、RC2 128bitの方式を使用しています。

SSL方式は主にHTTPサービスを受ける場合と、LDAPディレクトリのサービスを受ける場合に使用されています。

128bit RC2方式はミーティングサービス、チャット機能、マルチメディアサービスなどの機能を使用する場合に使用されています

そのほかにもミーティングパスワードの設定や、ミーティングの非表示などのさまざまなセキュリティ対策がとられています

IBMにおける例

- チャットでのメッセージのやり取り
 - ◆ 一日300万件

- 2001年6月の実績
 - ◆ 86,168人・時間のミーティング
 - ◆ 一日平均160回のミーティング
 - ◆ 22のミーティングでは75人以上の参加者

- これらのミーティングの内10%が本来は出張だったと考えると、\$1.9Mもの経費を削減できたと考えられます
 - ◆ ミーティング参加者を5人とし、各々の経費が\$800と計算しています

Notes:IBMにおける例

IBMでは既に何年もの間、Sametimeを使用しています。Sametimeのチャット機能によって、多くの電話料金は削減され、ウェアナース機能によって、在席しているか、どこにいるのかなどの情報を即座に得ることができています。また、ミーティング機能によって多くの出張経費などが削減されています。

チャットでのメッセージのやり取り
一日300万件

2001年6月の実績
86,168人・時間のミーティング
一日平均160回のミーティング
22のミーティングでは75人以上の参加者

これらのミーティングの内10%が本来は出張だったと考えると、\$1.9Mもの経費を削減できたと考えられます
ミーティング参加者を5人とし、各々の経費が\$800と計算しています

Sametimeのもたらす利益

- スピーディーなレスポンス
 - ◆ 在席確認 > チャットの流れにより、スピーディに対応できます
- 低コスト
 - ◆ IBMでの例として、相手が在席であることを確認してから長距離電話をかけることにより、年間1万ドルの経費が削減できます
- セキュア
 - ◆ 暗号化、パスワード保護により、情報が漏れることはありません
- 効率的
 - ◆ オンラインミーティングなどの使用により、出張などの移動時間もなくなり、分散したチームの不利益を無くすことができます



- お客様への対応の迅速化
- ビジネスプロセスのスピードアップ

Notes:Sametimeのもたらす利益

- スピーディーなレスポンス
 - ◆ 在席確認 > チャットの流れにより、スピーディに対応できます
- 低コスト
 - ◆ 前述のオンラインミーティングによる出張経費の削減があります
 - ◆ IBMでの例として、相手が在席であることを確認してから長距離電話をかけることにより、年間1万ドルの経費が削減できます
- セキュア
 - ◆ 暗号化、パスワード保護により、情報が漏れることはありません
- 効率的
 - ◆ オンラインミーティングなどの使用により、出張などの移動時間もなくなり、分散したチームの不利益を無くすことができます
- 以上のような効果から、お客様への対応の迅速化、ビジネスプロセスのスピードアップなどを図ることができます

Sametime3.0 新機能

- 同一OS / 400上で複数のSametimeサーバーが稼働します
- CHGLSTDOMコマンドが使用可能
 - ◆ IPアドレスやホスト名の変更が容易になりました
- Audio/Videoコンポーネントがデフォルトで使用可能
 - ◆ Sametimeサーバー作成時に自動的に追加されるようになりました
- ホワイトボードを保存できるかどうかを設定できます
 - ◆ ライセンスプログラム5722SS1 option33、5722JV1 option 3、5799PTLが必要で
- ホワイトボードにさまざまなコンテンツを貼り付けることができます
 - ◆ Sametimeプリントキャプチャーを用いることでWindowsアプリケーションを貼り付けられます
- ミーティングを保存できます
- SametimeとQuickPlaceの連携機能が広がりました

Notes: Sametime3.0 新機能

- 同一OS / 400上で複数のSametimeサーバーが稼働します
 - 同一LPAR上であっても複数のSametimeサーバーが起動します
 - 異なるIPアドレスを割り振る必要があります
- CHGLSTDOMコマンドが使用可能
 - Notes.iniを書き換えることなく、ホスト名を変更できます
- Audio/Videoコンポーネントがデフォルトで使用可能
 - Sametime2.5ではオプションのサービスパッケージを利用することでAudio/Videoコンポーネントを使用できましたが、Sametime3.0では、Sametimeサーバー作成時に自動的に追加されるようになりました
- ホワイトボードを保存できるかどうかを設定できます
 - デフォルトのインストールでは有効ではありません
 - 保存するためにはいくつかのライセンスプログラムが必要です
 - 5722SS1 option33 OS/400 Portable Application Solution Environment
 - 5722JV1 option 3 JDK 1.2 もしくは 5722JV1 option 5 JDK 1.3
 - 5799PTL iSeries Tools for Developers PRPO
- ホワイトボードにさまざまなコンテンツを貼り付けることができます
 - Sametimeプリントキャプチャーを用いることでWindowsアプリケーションを貼り付けられます
- ミーティングを保存できます
 - ミーティングを保存しておき、後でプレイバックを見ることができます
- SametimeとQuickPlaceの連携機能が広がりました
 - QuickPlaceのプロジェクト管理とチャット、ミーティングの機能を連携できます

Sametime3.0a 新機能

- Sametime 3.0aではWindows版Sametime 3.0 サービスパック1でのアップデートを含んでいます
- Sametime 3.0aを導入するためのSametime 3.0は必要ありません
 - ◆ Sametime 3.0aを導入しても、DSPSFWRSCコマンドではバージョン情報は3.0のままです
- Sametime 3.0aはドミ/5.0.10以降、ドミ/6.0.1以降で起動します
 - ◆ ドミ/6.0.1以降のバージョンで起動するためにはドミ/6 5733LD6 に対して SE09633のPTFが必要になります
- SIPゲートウェイのサービスを使用できるようになりました
- Secure desktopを使用できるようになりました
- 言語パックはSametime 3.0と同じです。3.0用の言語パックを導入してください
- 注意点
 - ◆ ホステーブルの設定においてフルドメイン名を初めに書く必要があります
 - ◆ Sametime 6.0.1以降のバージョンではiSeriesナビゲーターを用いたSametimeサーバーの追加ができなくなりました

Notes: Sametime3.0a 新機能

Sametime 3.0aではWindows版Sametime 3.0 サービスパック1でのアップデートを含んでいます

いくつかのフィックスがなされています

Sametime 3.0aを導入するためのSametime 3.0は必要ありません。単独で導入することができます
Sametime 3.0aを導入しても、DSPSFWRSCコマンドではバージョン情報は3.0のままです

確認するためにはSametime 3.0aを起動し、http://Server_name/Sametime/buildinfo.txt にアクセスしてください

Sametime 3.0aはドミ/5.0.10以降、ドミ/6.0.1以降で起動します

ドミ/6.0.1以降のバージョンで起動するためにはドミ/6 5733LD6 に対して SE09633のPTFが必要になります

詳しい情報は Sametime 3.0a ソフトウェアに付属のreadme.html上のWhat's new in Sametime 3.0a? の章を参照してください

SIPゲートウェイのサービスを使用できるようになりました

Secure desktopを使用できるようになりました

言語パックはSametime 3.0と同じです。3.0用の言語パックを導入してください

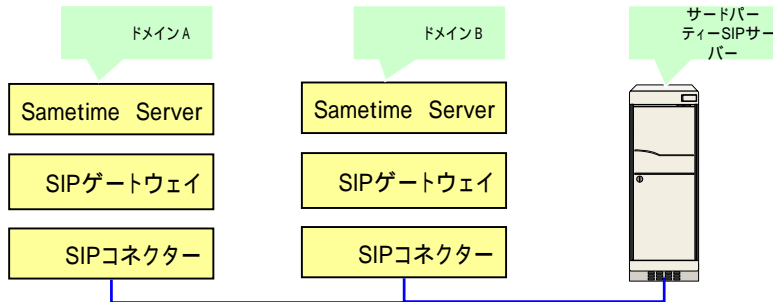
注意点

OS / 400 条のホステーブルにおいてフルドメイン名を初めに書く必要があります

Sametime 6.0.1以降のバージョンではiSeriesナビゲーターを用いたSametimeサーバーの追加ができなくなりました、必ずC1コマンド上でADDLSTDOMコマンドを使用してください

SIPゲートウェイ

- SIPゲートウェイはSametime 3.0aの機能です
- Dominoドメインの異なるコミュニティーと連携
- サードパーティーSIPサーバーとのコミュニティーと連携
 - ◆ チャット、在席確認の機能のみ



Notes:SIPゲートウェイ

SIPゲートウェイはSametime 3.0aの機能です

SIPゲートウェイのサービスを使用することで、異なるドメイン名を持つコミュニティー間でサービスを共有することができます。SIPとはSession Initiation Protocolのことで、IPネットワーク上でマルチメディアセッションを確立・変更・終了するための、アプリケーション層のプロトコルです。SIPゲートウェイによって、ビデオ会議や電話、インスタントメッセージなどを異なるアプリケーションでも接続できます。

SIPコネクターはSIPのセッションを受け付けるために使用します。SIPコネクターはSametimeサーバーが稼働しているiSeries上でも、別のサーバー上で稼働していてもかまいません。この場合、SIPコネクターはWINDOWS上にインストールすることになります。

SametimeサーバーはSIPゲートウェイを設定することで異なるコミュニティーのSametimeサーバーと接続することができます。この時、SIPコネクターを通して通信を行うこととなりますが、SIPコネクターはSametimeサーバーと同じiSeries上でもかまいませんし、WINDOWS上にインストールしたSIPコネクターを通して通信を行ってもかまいません。また、Sametime以外のサードパーティーSIPサーバーとも接続することができます。この時、Audio/Videoサービスは使用できず、チャット、在席確認の機能のみの使用となります。

Sametime 3.0aはSIPゲートウェイの機能と、SIPコネクターの機能を含んでいます。また、WINDOWS上にSIPコネクターをインストールすることができます。CDROM 2枚目に¥SIPConnector¥setup.exeを実行することでインストールできます。WINDOWS NTもしくはWINDOWS 2000にインストール可能です。

iSeries側のシステム要件

- ソフトウェア要件
 - ◆ OS/400 V5R1M0以降
 - ◆ ライセンスプログラム
 - ◆ 5769LNT(ロータスドミノR5.0.10以降)
 - ◆ 最新の累積PTFが適用されていることを確認
- ハードウェア要件
 - ◆ RISCモデル
 - ◆ iSeriesサーバーモデル、またはDSDモデルを推奨
 - ◆ メモリ
 - 最小256MB、推奨512MB以上
 - ◆ ハードディスク
 - 最小512MB、推奨1GB以上

Notes: iSeries側のシステム要件

ソフトウェア要件

サポートされるOS/400はV5R1M0以降で最新のPTFをを適用してください。
 OS/400 Host servers 5722SS1 option 12
 TCP/IP Connectivity Utilities for iSeries 5722TC1
 IBM Developer Kit for Java 5722JV1 option 5
 OS/400 QShell Interpreter 5722SS1 option 30
 ライセンスプログラムは導入するSametimeの言語と一致したロータスドミノR5.0.10以降が必要で
 ドミノ6.0.1はSametime 3.0aでサポートされています
 必須ではありませんが、オペレーションナビゲーター(iSeriesナビゲーター)が必要です。
 5722XE1.5722XW1
 最新の累積PTFが適用されている必要があります。PTF情報は以下のサイトを参照してください。
<http://www.ibm.com/eserver/series/domino/support>
<http://www.ibm.com/eserver/series/service>

ハードウェア要件

RISCモデル

iSeriesサーバーモデル、またはDSDモデルを推奨
 DSDモデルを使用している場合、RE1200(DSD Enhanced Support for Java)のPTFが必要になります。詳しい情報は
<http://www.ibm.com/eserver/series/domino/dsdjava.html> を参照してください。

メモリ

最小256MB、推奨512MB以上が必要です。

ハードディスク

最小512MB、推奨1GB以上が必要です。

PC側のクライアント要件

- ソフトウェア要件
 - ◆ Operating System
 - Windows95 OSR2, Windows98(SE), WindowsNT Workstation4.0 Service Pack 6a以降, Windows2000 Professional Service Pack 2以降, WindowsXP
 - ◆ ブラウザ
 - Microsoft Internet Explorer 4.0.1 ServicePack2以降, Netscape Navigator 4.5 もしくは 4.7
 - ◆ その他のソフトウェア
 - Lotus Notes 5.0.2a以降, Sametime Connect client
- ハードウェア要件
 - ◆ CPU Pentium 266MHz以上
 - ◆ メモリ
 - 128MB Windows NT, 2000, XP
 - 96MB Windows 95, 98, 98SE
 - ◆ その他のハードウェア
 - サウンドカード、マイク、スピーカー、ビデオキャプチャ

Notes: PC側のクライアント要件

ソフトウェア要件

Operating System

Windows95 OSR2, Windows98(SE), WindowsNT Workstation4.0 Service Pack 6a以降, Windows2000 Professional Service Pack 2以降, WindowsXP

ブラウザ

Microsoft Internet Explorer 4.0.1 ServicePack2以降, Netscape Navigator 4.5 もしくは 4.7

その他のソフトウェア

Lotus Notes 5.0.2a以降はロータスアプリケーションを使用する場合に必要です。

Sametime Connect clientは専用のクライアントを用いてチャットなどのコミュニケーションをする場合に必要です。

ハードウェア要件

CPU Pentium 266MHz以上

Windows NT, 2000, XPは128MB以上のメモリが必要です。

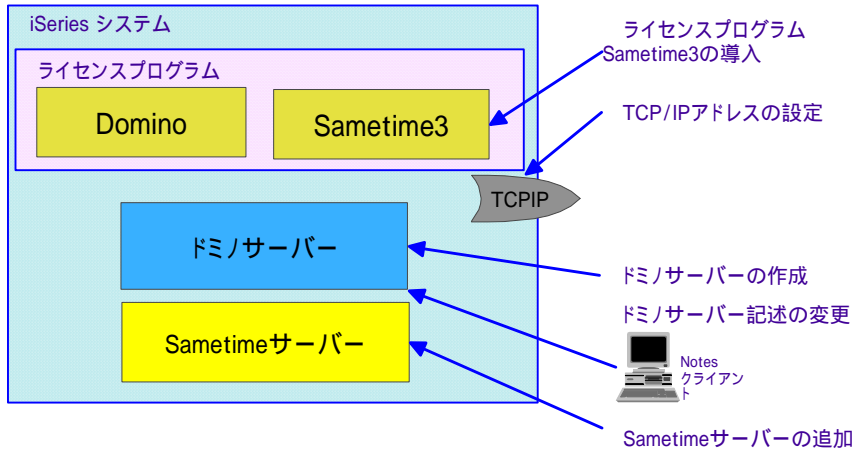
Windows 95, 98, 98SEは、96MB以上のメモリが必要です。

サウンドカード、マイク、スピーカー、ビデオキャプチャはaudio/video meetingを使用する場合に必要です。

第2章 Sametimeの導入

Blank Page

Sametime3.0導入の概要



Notes: Sametime3.0導入の概要

Sametimeサーバーはドミノサーバーに追加する形で導入します。つまり、IPアドレス、ポートの構成、ユーザーの管理、セキュリティ関連などのサーバーの構成のほとんどの内容がドミノサーバーで設定される形になります。ここではドミノは既に導入されているものとしています

Sametimeサーバーの構成

ライセンスプログラムSametime3の導入

既にライセンスプログラムDOMINO5が導入されているときに、Sametime3を導入します。Sametime3自体は英語版ですので、追加で日本語の言語パックも導入します

TCP/IPアドレスの設定

Sametimeサーバーに使用するTCP/IPアドレスとホステータブルの設定を行います。

システムのIPアドレスを使用する場合には特に設定は必要ありません。Sametimeサーバーとして専用のIPアドレスを用いたい場合に実行します

ドミノサーバーの作成

Sametimeサーバーを追加するためのドミノサーバーを作成します

このサーバーの管理者はSametimeサーバーの管理者になります

ドミノサーバー記述の変更

ドミノサーバーをSametimeサーバーとして稼働するための構成の変更を行います

この作業はNotesクライアントから行います

Sametimeサーバーの追加

ドミノサーバーにSametimeサーバーを追加します

CLコマンドADDLSTDOMコマンドを用います

iSeries ナビゲーターからも追加することができます

ライセンスプログラム Sametime3.0の導入

- 導入前に確認してください
 - ◆ システム値"QTIME"が日本時間になっていますか？
 - ◆ システム値"QUTCOFFSET"が"+09:00"になっていますか？
 - ◆ DSPSYSVALコマンドで確認してください
 - ◆ WRKSYSVAL、CHGSYSVALコマンドで変更します
- Sametime 3.0a をDomino6 に導入するためにはSE09633のPTFが必要になります
 - ◆ 詳しい情報は Sametime 3.0a ソフトウェアに付属のreadme.html上のWhat's new in Sametime 3.0a? の章を参照してください
- 導入するiSeriesにSametimeのCDROMを挿入してください

Notes:ライセンスプログラム Sametime3.0の導入

- 導入前に確認してください
- システム値"QTIME"が日本時間になっていますか？
 - システム値"QUTCOFFSET"が"+09:00"になっていますか？
 - DSPSYSVALコマンドで確認してください
 - WRKSYSVAL、CHGSYSVALコマンドで変更します
- Sametime 3.0a をDomino6 に導入するためにはSE09633のPTFが必要になります
- 5769LD6に対してSE09633PTFを適用してください
 - 詳しい情報は Sametime 3.0a ソフトウェアに付属のreadme.html上のWhat's new in Sametime 3.0a? の章を参照してください
- 導入するiSeriesにSametimeのCDROMを挿入してください
- SAVFから導入する場合には必要ありません

ライセンスプログラム Sametime3.0の導入

CDROMからの導入

- ▶ LODRUN DEV(*OPT) DIR('/OS400') コマンドでインストーラを起動します

SAVFからの導入

- ▶ RSTLICPGM LICPGM(5733LST) DEV(*SAVF) LNG(2924) SAVF(Q5733LST)
 - 必ずLNG(2924)パラメータを指定してください

Notes:ライセンスプログラム Sametime3.0の導入

CDROMからの導入

LODRUN DEV(*OPT) DIR('/OS400') コマンドでインストーラを起動します

SAVFからの導入

RSTLICPGM LICPGM(5733LST) DEV(*SAVF) LNG(2924) SAVF(Q5733LST)

必ずLNG(2924)パラメータを指定してください

英語版のSametimeが導入されます

日本語の導入は言語バックCDから行います(次ページにて説明)

導入にはシステムによりますが、約30分かかります

iSeries システム上のTCP/IP環境の設定

CFGTCPコマンドを用いてIPアドレス、ホストテーブルの設定を行います

- ▶ 1. TCP/IP インターフェースの処理
 - SameTimeサーバーの使用する
IPアドレスを追加します
- ▶ 10. TCP/IP ホスト・テーブル
項目の処理
 - 構成するIPアドレスと、
ホスト名とのマッピングを行います

```

この中から一つを選択してください。
システム 1 001000

1. [TCP/IP] インターフェースの処理
2. [TCP/IP] 属性の変更
3. [TCP/IP] ネットワーク環境の処理
4. [TCP/IP] ネットワーク環境の処理
5. [TCP/IP] ネットワーク環境の処理
6. [TCP/IP] ネットワーク環境の処理
7. [TCP/IP] ネットワーク環境の処理
8. [TCP/IP] ネットワーク環境の処理
9. [TCP/IP] ネットワーク環境の処理
10. [TCP/IP] ホスト・テーブル項目の処理
11. [TCP/IP] ホスト・テーブルの読み書き
12. [TCP/IP] ドメイン情報の変更

20. [TCP/IP] 通信属性の処理
21. [TCP/IP] ネットワーク環境
22. [TCP/IP] ネットワーク環境

選択項目またはコマンド
TCP/IP 10. [TCP/IP] ホスト・テーブル項目の処理
  
```

Notes: iSeries システム上のTCP/IP環境の設定

Sametimeサーバーの使用するIPアドレスの設定を行います
SametimeサーバーはiSeriesシステムや、他のドミノサーバーと異なるIPアドレスを保持することが望ましいです

CFGTCPコマンドを用いてIPアドレス、ホストテーブルの設定を行います

- 1. TCP/IP インターフェースの処理
 - Sametimeサーバーの使用するIPアドレスを追加します
- 10. TCP/IP ホスト・テーブル項目の処理
 - 構成するIPアドレスと、ホスト名とのマッピングを行います
 - 必ず、ホスト・テーブルの最初のテーブルには完全DNSホスト名を入力してください
例: Sametime.IBM.com

ドミノサーバー記述において、ドメイン名とサーバーをバインドするためには、DNSサーバーに登録されている必要があります
DNSサーバーに登録されていない場合、正常にSametimeサーバーが正常に起動しない場合があります

ドミノサーバーの準備

- 新規DOMINOサーバーの作成には、CFGDOMSVRコマンドを使用します

Configure Domino Server (CFGDOMSVR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

Server name SERVER > stserver

Option OPTION > *FIRST

Data directory DTADIR /stserver

Organization ORG stdom

Notes:ドミノサーバーの準備

Sametimeサーバーを導入するDOMINOサーバーを新規作成します
ドミノサーバーを新規作成する場合はCFGDOMSVRコマンドを使用します
サーバー名:SERVER

作成するドミノサーバーのサーバー名を入力します

サーバー名はDNSに登録されているホスト名と同じにすることが望ましいです

OPTION

* *ADDを指定することも可能です。*FIRSTを指定した場合、他にドミノサーバーが存在するときはアドバンスド・サービスに*PARTITIONを指定する必要があります。

データ・ディレクトリー : DTADIR

ドミノサーバーのデータを格納するディレクトリを指定します。データはIFS上に作成されます。

組織名 : ORG

ドミノサーバーの組織名を指定します。OPTが*FIRSTの場合はこの入力必須です。

ドミノサーバーの準備

Configure Domino Server (CFGDOMSVR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

Administrator:	ADM	
Last name		user
First name		admin
Middle name		
Password		password
Minimum password length . . .		8
Internet password		password
Time zone	TIMEZONE	ZE9
Daylight savings time	DAYSAVTIME	*NO
Web browsers	WEB	*HTTP
Internet mail packages	MAIL	*NONE

値の続きは +

Notes:ドミノサーバーの準備

管理者 : ADM

管理者名を入力します。管理者名は管理者のNOTESのIDになります。

パスワード : Password

ドミノサーバーの管理者のパスワードを入力します。

最短パスワード長 : Minimum password length

パスワード長の最短の値を入力します。0にするとパスワードなしになります。

インターネット・パスワード : Internet password

Sametimeサーバーにアクセスするために必要です。

標準時 : Time zone

日暴時間の場合は"ZE9"を指定します。

サマータイム : DAYSAVTIME

* * YES'を指定します。

WEBサーバー機能 : WEB

* * HTTP"を指定します。SametimeサーバーにHTTPを用いてアクセスするために必申です。

インターネット・メールパッケージ : MAIL

* * NONE"を指定します。必要ありません。

SMTPサービス

* * DOMINO"を指定します。

ドミノ6以降では追加のパラメーターになりました

ドミノサーバーの準備

Configure Domino Server (CFGDOMSVR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

Directory services	DIRSRV	*NONE
Connection services	CNNSRV	*DECS
Advanced services	ADVSRV	*PARTITION
	値の続きは+	
Default ACL settings	DFTACL	*ADMGRP
Text 'descRIPtion'	TEXT	*BLANK

追加のパラメーター

TCP/IP port options:	TCPOPT	
Encrypt network data		*NOENCRYPT
Internet address		xxx.xxx.xxx.xxx
Server host name	SRVHSTNAME	stserver.IBM.com

Notes:ドミノサーバーの準備

ディレクトリー・サービス : DIRSRV

* * NONE"を指定します。必要ありません。

ニュース・リーダー : NEWS

* * NONE"を指定します。必要ありません。

ドミ/6では追加のパラメーターになりました

接続サービス : CNNSRV

* * NONE"を指定します。必要ありません。

アドバンスド・サービス : ADVSRV

* * PARTITION"を指定します。他のドミノサーバーが存在する場合には必須です。

Default ACL settings : DFTACL

*ADMGRPを指定します

追加のパラメータ

F10キーを押すことで追加のパラメータを表示することができます

ここではネットワーク関連のパラメータを変更する必要があります

ネットワーク・データの暗号化 TCPOPT

* * NOENCRYPT"を指定します。

インターネット・アドレス

Sametimeサーバーの使用するIPアドレスを指定します。必ず指定してください。

Server host name : SRVHSTNAME

フルドメイン名を指定します

ドミ/6で追加されたパラメーターです

ドミノサーバー記述の構成

- 作成したドミノサーバーの記述をSametimeサーバー用書き換える必要があります
- ドミノサーバーの起動
 - ◆ WRKDOMSVR、もしくはSTRDOMSVRコマンドを使用してドミノサーバーを起動します
 - ◆ STRDOMSVR SERVER(ドミノサーバー名)

```

Work with Domino Servers
System: ORION2

Type options, press Enter.
1=Start server 2=Change server 5=Display console 6=End server
7=Submit command 8=Work console 9=Work server jobs
11=Change current directory 12=Work object links 13=Edit NOTES.INI

Domino
Opt Server      Subsystem  Domino
REAL1          DOMIN001  *STARTED

Parameters or command
====>
Bottom

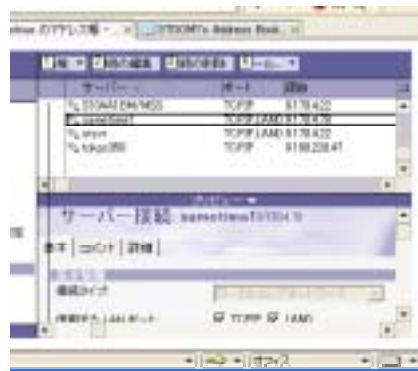
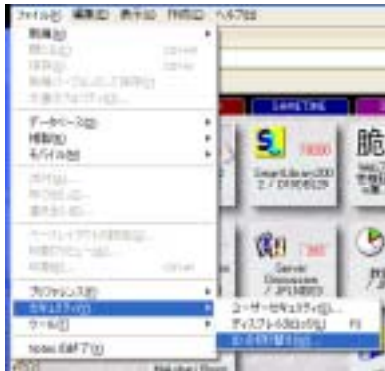
```

Notes:ドミノサーバー記述の構成

- 作成したドミノサーバーの記述をSametimeサーバー用書き換える必要があります
 ドミノサーバーの起動を起動し、Notesでアクセスできるようにします
 WRKDOMSVR、もしくはSTRDOMSVRコマンドを使用してドミノサーバーを起動します
 STRDOMSVR SERVER(ドミノサーバー名)コマンドで起動します

ドミノサーバー記述の構成

- ドミノサーバー記述にアクセスします
- NOTESを起動し、ユーザIDの切り替えを行います
- ドミノサーバーへの接続を追加しておきます



Notes:ドミノサーバー記述の構成

ドミノサーバー記述にアクセスします

作成したIDに切り替えます

NOTESを起動します。

ファイル > セキュリティ > IDの切り替えを選択し、先ほどコピーした"user.id"のIDへ切り替えます。

パスワードを聞かれるので入力します。

相互認証が必要になるので"はい"を選択します。

DNSでサーバーのIPアドレス解決ができない場合に、アドレス長に接続を追加します

ドミノサーバーへの接続を追加します。

ブックマーク上のアドレス帳をクリックします

左側のタブの詳細 > 接続をクリックします

新規 > サーバー接続をクリックします

基暴タブにおいて

接続タイプ: ローカルエリアネットワーク

サーバー名: ドミノサーバー名

使用するLANポート: TCPIP, LAN0をチェックします

詳細タブにおいて

受信側サーバーアドレス: ドミノサーバーのIPアドレス

上記の構文で新規接続を作成します。

保存して閉じるをクリックします

ドミノサーバー記述の構成

■ サーバーのアドレス帳を開きます



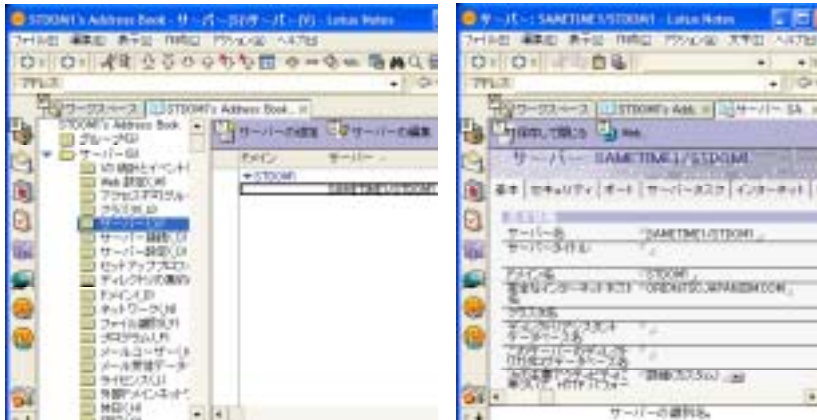
Notes:ドミノサーバー記述の構成

- ドミノサーバーのアドレス帳を開きます
 - ファイル > データベース > 開くをクリックします
 - サーバー名を入力し、実行キーを押すとデータベースに一覧が参照できます
 - そのサーバーのAddress Bookを開きます

- アドレス帳には、ドミノサーバーの記述が含まれています
 - ドミノサーバーの記述をSametimeサーバー用に書き換える必要があります

ドミノサーバー記述の構成

■ ドミノサーバー記述を編集します



63

The next generation iSeries...simplicity in an on demand world

© 2003 IBM Japan Systems Engineering Co., Ltd.

Notes:ドミノサーバー記述の構成

ドミノサーバー記述を編集します

Address Bookの左側のタブで、サーバー>サーバー>を開きます。

該当するサーバーをクリックして、サーバーの編集を選択します。

64

The next generation iSeries...simplicity in an on demand world

© 2003 IBM Japan Systems Engineering Co., Ltd.

ドミノサーバー記述の構成

- サーバー記述の構成
 - 基本タブ
 - ◆ Sametimeサーバーかどうか
 - "はい"を選択します
 - ◆ 完全なインターネットホスト名
 - DNSに登録されている完全DNSホスト名を入力します
 - セキュリティタブ
 - ◆ 制限なしLotusScript/Javaエージェントの実行
 - ここにユーザ名を書き込むと、そのユーザは制限なしにエージェントを実行できます
 - ポートタブ > ネットワークポート
 - ◆ ポート
 - TCPIPを入力します
 - ◆ ネットアドレス
 - ドミノサーバーのホスト名を入力します

Notes:ドミノサーバー記述の構成

サーバー記述の構成を行います

基本タブ

Sametimeサーバーかどうか

"はい"を選択します

Sametimeタブが現れます

完全なインターネットホスト名

DNSに登録されている完全DNSホスト名を入力します

デフォルトではシステムのホスト名になっていることがあります。必ず確認してください

セキュリティタブ

制限なしLotusScript/Javaエージェントの実行

ここにユーザ名を書き込むと、そのユーザは制限なしにエージェントを実行できます

ポートタブ > ネットワークポート

ポート

TCPIPを入力します

TCPIPを設定しないとSametimeをドミノサーバーに追加することはできません。

ネットアドレス

ドミノサーバーのホスト名を入力します

例:stdom1

ドミノサーバー記述の構成

- インターネット > HTTPタブ
 - ◆ ホスト名
 - DNSホスト名を入力します
 - ◆ ホスト名へのバインド
 - "有効"にします
 - ◆ HTTPクライアントからのデータベース参照を許可
 - "はい"にします
 - ◆ ホームURL
 - "/stcenter.nsf?Open"にします
- Sametimeタブ
 - ◆ ホスト名
 - DNSホスト名を入力します
 - ◆ ホスト名へのバインド
 - "有効"にします

Notes:ドミノサーバー記述の構成

インターネット > HTTPタブ

ホスト名

DNSホスト名を入力します。
DNSホスト名がない場合は指定する必要はありません

ホスト名へのバインド

"有効"にします。
DNSホスト名がない場合は指定する必要はありません。

HTTPクライアントからのデータベース参照を許可

"はい"にします

ホームURL

"/stcenter.nsf?Open"にします。
stcenter.nsfがSametimeのウェルカムページになります。

Sametimeタブ

ホスト名

DNSホスト名を入力します。
DNSホスト名がない場合は指定する必要はありません

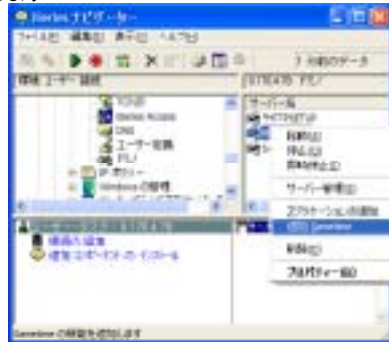
ホスト名へのバインド

"有効"にします。
DNSホスト名がない場合は指定する必要はありません。

Sametimeタブはドミノ6では設定する必要はありません

Sametimeサーバーの作成

- 導入する予定のドミノサーバーが停止していることを確認してください
 - ◆ WRKDOMSVRコマンドで確認してください
 - ◆ WRKDOMSVR OPTION 9 でサブシステム内のジョブがないことも確認してください
- ドミノサーバーにSametimeサーバーを追加します
 - ◆ CLコマンドを用いる場合
 - ADDLSTDOM
 - ◆ iSeries ナビゲーターを用いる場合
 - ネットワーク > サーバー > ドミノ内のドミノサーバーを右クリック
 - "追加 Sametime"をクリック



Notes: Sametimeサーバーの作成

- 導入する予定のドミノサーバーが停止していることを確認してください
WRKDOMSVRコマンドで確認してください
WRKDOMSVR コマンドのオプション9でサブシステム内のジョブがなくなっていることも確認してください
- ドミノサーバーにSametimeサーバーを追加します
- CLコマンドを用いる場合
ADDLSTDOM SERVER(ドミノサーバー名)
ADDLSTDOMコマンドのオプション
Directory type... ユーザーの管理などをドミノを用いるか、LDAPを用いるかを指定します。デフォルトはドミノを用います
Allow HTTP Tunneling... HTTPトンネリング機能を用いてSametimeサーバーにアクセスするかを指定します。デフォルトはNOです
Event Server port... イベントサーバーのポートを設定します。デフォルトでは9092になっています
Token Server port... トークンサーバーのポートを設定します。デフォルトでは9094になっています
- iSeries ナビゲーターを用いる場合
ネットワーク > サーバー > ドミノ内のドミノサーバーを右クリック
"追加 Sametime"をクリック
- ここまでで、Sametimeサーバーの導入は終了です
- 1つのiSeriesシステム上で複数のSametimeサーバーを導入する場合、イベントサーバーポートと、トークンサーバーポートは他のSametimeサーバーと異なるポートに設定しなくてはなりません。この設定は、複数のSametimeサーバーが異なるIPアドレスを割り振られていたとしても同様です。

第3章 Sametimeの管理

Blank Page

Sametimeサーバーの起動、終了

- CLコマンドを用いる場合
- WRKDOMSVRから起動、終了させます
- STRDOMSVRで起動、ENDDOMSVRで終了させます
- iSeriesナビゲーターを用いる場合
- iSeriesのサーバー>ネットワーク>サーバー>ドミノを開きます
- 起動したいサーバーを右クリックし、起動を選択します
- 終了したい場合は、停止をクリックします



Notes: Sametimeサーバーの起動、終了

Sametimeサーバーの起動、終了

CLコマンドを用いる場合

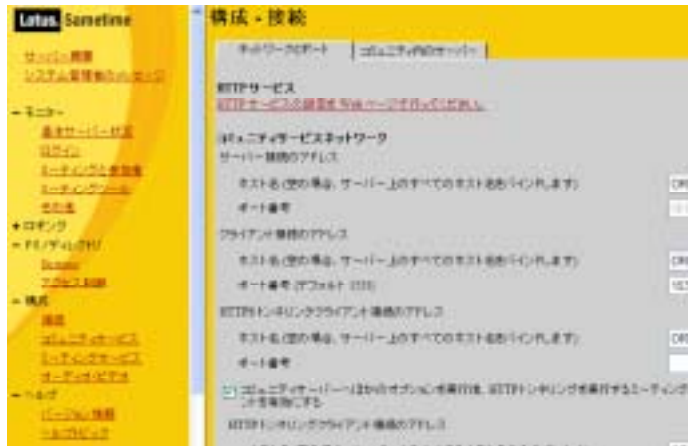
WRKDOMSVRから起動、終了させます
STRDOMSVRで起動、ENDDOMSVRで終了させます

iSeriesナビゲーターを用いる場合

iSeriesのサーバー>ネットワーク>サーバー>ドミノを開きます
起動したいサーバーを右クリックし、起動を選択します
終了したい場合は、停止をクリックします

ドミノサーバーの起動終了とまったく同じです
起動したらドミノコンソールのログを確認し、以下のメッセージが出るまでアクセスしないでください
Sametime: Server startup successful.

Sametime 管理ツール



Notes: Sametime 管理ツール

Sametime管理ツールはブラウザからアクセスできます。サーバーの管理者として設定されたユーザーのみがログオンできます

ウェルカムページ下方のサーバーの管理をクリックし、サーバーの管理者名でログオンしてください

サーバー概要

サービスの起動状況を監視することができます
ここでは、サブシステム内のどのジョブが起動中であるかを監視できます

モニター

基本サーバー状況、ログイン、ミーティングと参加者、ミーティングツール、などを監視できます

ログ

コミュニティ ログオン/ログアウト、コミュニティ統計、コミュニティイベント、プレスへのログオンの失敗、ミーティングへのログオンの失敗、ミーティング接続、サーバー接続、ミーティング統計、ミーティングイベント、キャパシティ警告、使用制限、ドミノログを参照できます
設定によって、ロギングの設定を行うことができます

ドミノディレクトリ

ドミノディレクトリに関する情報を管理できます
サーバー文書の変更
ユーザーの管理

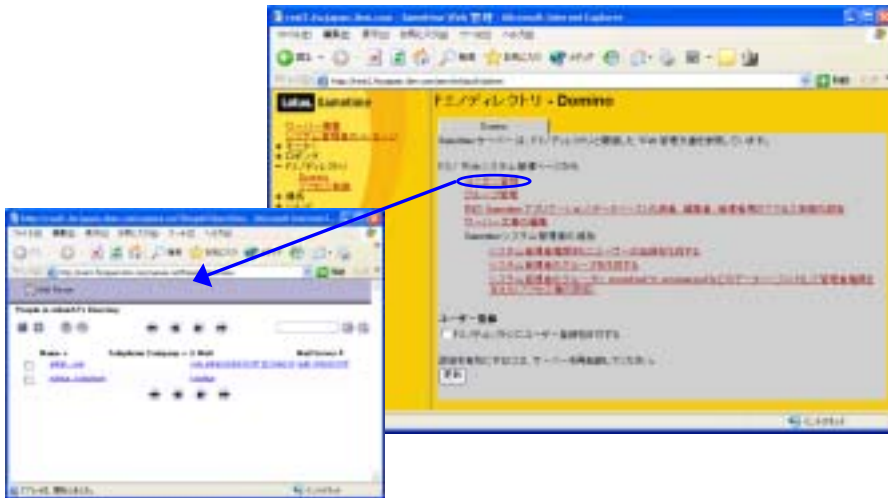
構成

コミュニティサービス、ミーティングサービスの構成を変更することができます
使用するポート、アドレスの設定なども可能/なります

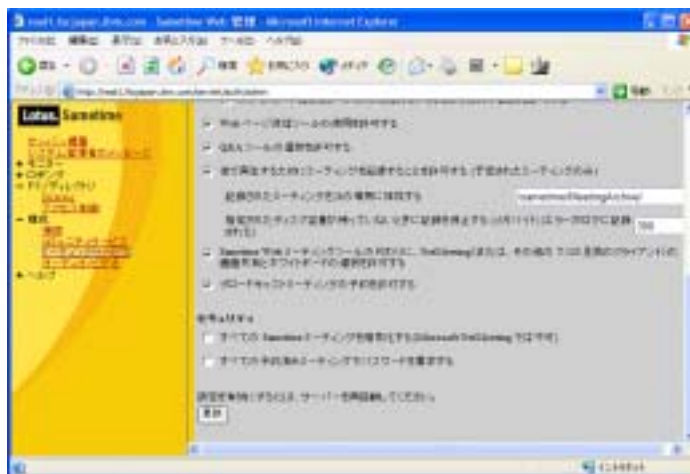
ヘルプ

バージョン情報を見ることができます
英語での管理者用ヘルプを参照できます

Sametime 管理ツール ドミノディレクトリ



Sametime 管理ツール 構成



ユーザー登録の概要

■ ユーザーの登録に必要な基本情報

- ◆ 名字
- ◆ ユーザ名
- ◆ インターネットパスワード
- ◆ Sametimeサーバー(マルチSametimeサーバーを使用時に必要)

■ 登録方法

- ◆ Domino Administratorを用いて登録
- ◆ Sametime管理ツールを用いて登録
- ◆ Sametimeセルフ登録を用いて登録
- ◆ LDAPを用いて登録

Notes:ユーザー登録の概要

Sametimeのユーザーはドミノディレクトリ、もしくはLDAPディレクトリに作成されます

ユーザーの登録に必要な基本情報

名字(Last Name)

登録に名字が必要です

ユーザ名

ユーザ名を指定することでログインできます

インターネットパスワード

このパスワードでログインします

Sametimeサーバー(マルチSametimeサーバーを使用時に必要)

マルチSametimeサーバーを使用時にログインするためのサーバー名を指定します

マルチSametimeサーバーを使用していない場合は必要ありません

登録方法としては、以下の4種類があります

Domino Administratorを用いて登録

Sametime管理ツールを用いて登録

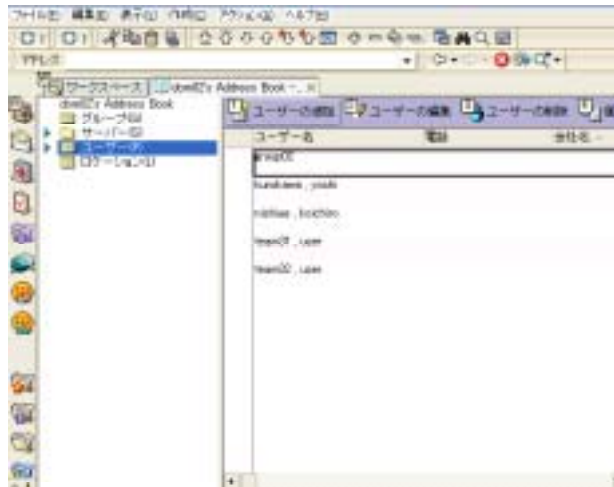
Sametimeセルフ登録を用いて登録

LDAPを用いて登録

Domino Administrator, Sametime管理ツール, Sametimeセルフ登録はドミノディレクトリに対してユーザーを登録します

LDAPディレクトリはLDAPのサーバーに対してユーザーを登録するので、ドミノ以外のユーザーを用いたい場合はLDAPを用いることになります

ドミノディレクトリーを用いて登録



Notes:ドミノディレクトリーを用いて登録

Domino Administratorのユーザーの追加機能でユーザー登録を行います

ドミノ上のユーザー登録と同じです
ユーザーの登録に必要な基本情報

基本タブ

名字(Last Name)

ユーザ名

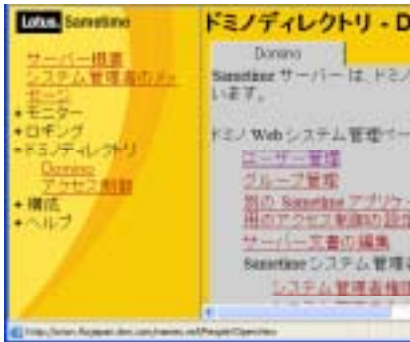
インターネットパスワード

管理タブ

Sametimeサーバー

Sametime管理ツールを用いて登録

- WEBベースのSametime管理ツールでドミノディレクトリーにユーザー登録します
 - ◆ 管理ページからドミノディレクトリー > Dominoを開きます
 - ◆ "ユーザー管理"をクリックし、ユーザーの管理ページを開きます
 - ◆ "ユーザーの追加"をクリックすることでSametimeユーザーを追加することができます



Notes:Sametime管理ツールを用いて登録

WEBベースのSametime管理ツールを用いてドミノディレクトリーにユーザー登録

Sametimeサーバーにブラウザでアクセスし、[Sametimeへようこそ]ページを表示します
<http://SametimeServerName/> にアクセスします

サーバーの管理をクリックし、管理者のIDでログオンします

Sametimeサーバーの管理者のIDとパスワードを使用してログオンします

ドミノディレクトリー > Dominoを開きます

"ユーザー管理"をクリックし、ユーザーの管理ページを開きます

"ユーザーの追加"をクリックすることでSametimeユーザーを追加することができます

ユーザーの情報はドミノディレクトリーに対して追加する情報とまったく同じです

名字 (Last Name)

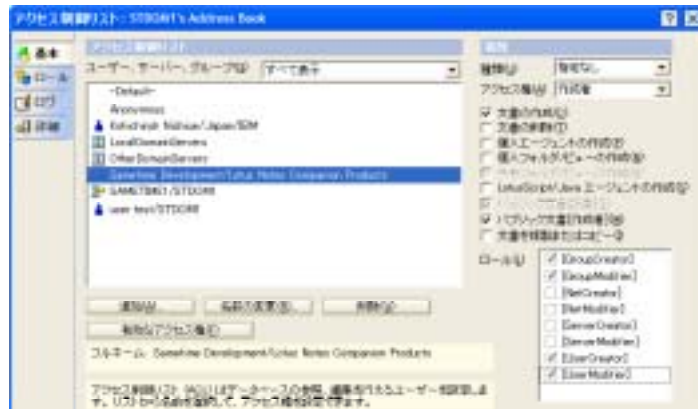
ユーザ名

インターネットパスワード

Sametimeサーバー

Sametimeセルフ登録を用いて登録

- Sametimeサーバーのアドレス帳のACLを変更します



Notes: Sametimeセルフ登録を用いて登録

Sametimeサーバーのアドレス帳のACLを変更します

Sametimeサーバーのアドレス帳のACLを開いてください

Sametime Development/Lotus Notes Companion Productsを追加します

種類: 指定なし

アクセス権: 編集者

文書の作成、パブリック文書[作成者]にチェック

ロール: [Group Creator],[Group Modifier],[User Creator],[User Modifier]をチェック

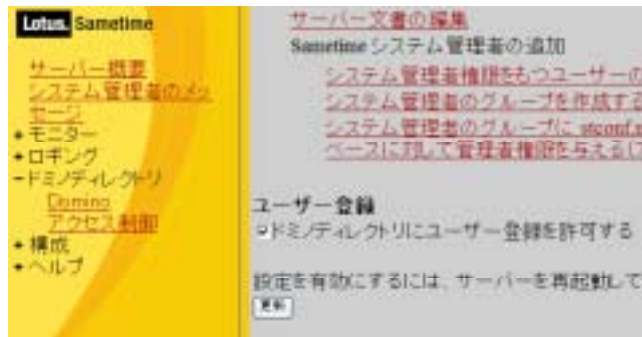
セキュリティの関係上 -Default- , Anonymousのアクセス権を変更

アクセス権を[なし]に変更

Sametimeセルフ登録を用いて登録

■ Sametimeセルフ登録を有効にします

- ◆ Sametime管理ページからドミノディレクトリ > Dominoを開きます
- ◆ [ドミノディレクトリにユーザー登録を許可する]をチェックし、更新ボタンを押します



Notes: Sametimeセルフ登録を用いて登録

Sametimeセルフ登録を有効にします

Sametime管理ページを開きます

<http://SametimeServerName/> を開き [サーバーの管理] をクリックし、Sametime管理ページを開きます

ドミノディレクトリ > Dominoを開きます

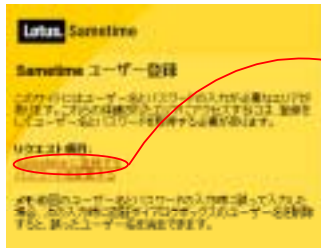
[ドミノディレクトリにユーザー登録を許可する] をチェックし、更新ボタンを押します

[ドミノディレクトリにユーザー登録を許可する] をチェックすることによって、[Sametimeへようこそ] ページ上に登録のアイコンが現れます

ここまでの作業でセルフ登録ができるようになっています

Sametimeセルフ登録を用いて登録

- セルフ登録で登録する
 - ◆ [Sametimeへようこそ] ページで登録をクリックします
 - ◆ ユーザー登録が可能になっています。



Notes: Sametimeセルフ登録を用いて登録

- セルフ登録で登録する
- 前頁までの作業でSametimeセルフ登録が可能になっています
- [Sametimeへようこそ] ページで登録をクリックします
- Sametimeに登録するをクリックします
- 登録に必要な情報を入力します
 - 必須な入力は"姓(Lastname)"とパスワード(再入力)です
 - ユーザ名は"名"と"姓"によって自動的に作成されます
 - Sametimeサーバー名は登録に使用したサーバーになります
- 登録後に確認メッセージが出ます
- Sametimeコネクトを起動してログオンできるかどうか確認してください

LDAPを用いて登録

- LDAPを用いることによって
 - ◆ ドミノディレクトリのユーザーだけでなく、様々なユーザーを一元管理できます
 - ◆ 一元管理を行うことによって、ユーザー管理が容易になります
- LDAPディレクトリを用いるには
 - ◆ LDAPサーバーが必要です
 - ◆ ADDLSTDOMコマンド実行時にLDAPオプションと、LDAPサーバーを指定します
- 設定
 - ◆ Sametime管理ツールを用いてLDAPの設定を行います
 - ◆ 設定の詳細はRedbooks “Deploying Lotus Sametime on the IBM eServer iSeries Server”を参照してください

Notes: LDAPを用いて登録

LDAPを用いることによって、
ドミノディレクトリのユーザーだけでなく、様々なユーザーを一元管理できます
一元管理を行うことによって、ユーザー管理が容易になります

LDAPディレクトリを用いるにはLDAPサーバーが必要です
LDAPサーバーを構成してください

ADDLSTDOMコマンド実行時にLDAPオプションと、LDAPサーバーを指定します
ADDLSTDOMコマンドの実行時にDIRTYEオプションに“LDAP”を指定します
この時、LDAPサーバーのアドレスと、LDAPサービスのポートも指定します

設定

Sametime管理ツールを用いてLDAPの設定を行います
Sametime管理ツールの“ドミノディレクトリ”が“LDAPディレクトリ”になります
設定の詳細はRedbooks “Deploying Lotus Sametime on the IBM eServer iSeries Server”を参照してください

Sametimeの管理体系

管理者	主な管理内容
ミーティング作成者(モデレーター)	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティング名、開催時期、期間を管理する。 ・ミーティングを保存するかどうか決定する。 ・ミーティングで使用するファイルをホワイトボードに添付する。 ・ミーティングに参加するメンバーを決定する。 ・ミーティングの暗号化、パスワードでの保護を管理する。 ・ミーティングで使用するツールを決定する。 ・ミーティングのパフォーマンスを考慮する。 ・他サーバー上に参加者がいる場合には、他のサーバーにミーティングの内容を公開する。
Sametimeの機能を含んでいる、Notesアプリケーションの管理	<ul style="list-style-type: none"> ・NotesDBのACLを管理する。 ・NotesDB内のデータの整合性を管理する。
Sametimeサーバー管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・各サービスの設定を管理する。 ・Sametimeサービスの稼働を管理する。 ・使用したミーティングの履歴を管理する。 ・リアルタイムの情報をSametimeモニターを使用し管理する。 ・Sametimeログを管理する。
Notes/Dominoサーバー管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザー登録(新規/削除/更新)を管理する。 ・Sametimeサーバー上で使用するDominoのタスクを管理する。 ・Notesログを管理する。 ・H/Wリソース(CPU, Memory, Disk, Network)を管理する。 ・サーバーの稼働を管理する。 ・データのバックアップを行う。

Notes: Sametimeの管理体系

Sametimeの管理の形態としては以下の4種類があります

- ミーティング作成者(モデレーター)
- Notesアプリケーションの管理
- Sametimeサーバーの管理
- Dominoサーバーの管理

第4章 クライアントの使用

Blank Page

Sametimeクライアントの種類

- Sametimeコネクタクライアント(デスクトップ用、ブラウザ用のクライアントが存在)
 - ◆ オンラインでの会話と在席確認
 - ◆ インスタントメッセージの送受信とチャット機能
- Sametimeミーティングルームクライアント
 - ◆ オンラインでのミーティング
 - ◆ ホワイトボード機能
 - ◆ 画面共有機能(アプリケーション共有、画面全体を共有、画面の一部を共有)
 - ◆ オーディオ/ビデオを使った通信機能
- Sametimeブロードキャストクライアント
 - ◆ 多数のユーザーに対して一方向で情報を伝達する
- Notesクライアント
 - ◆ NotesのユーザーインターフェースからSametimeの機能を利用することができる
- その他のSametimeにアクセス可能なクライアント
 - ◆ T.120に対応したクライアント

Notes: Sametimeクライアントの種類

Sametimeコネクタクライアント(C++, Javaそれぞれで作られたクライアントが存在)

オンラインでの会話と在席確認
 オンライン接続状況を知る機能(アウェアネス)
 インスタントメッセージの送受信とチャット機能
 ミーティングルーム・クライアントとの連携機能

Sametimeミーティングルームクライアント

オンラインでのミーティング
 ホワイトボード機能
 画面共有機能(アプリケーション共有、画面全体を共有、画面の一部を共有)
 オーディオ/ビデオを使った通信機能
 参加者のリストとチャット機能

Sametimeブロードキャストクライアント

多数のユーザーに対して一方向で情報を伝達する
 ブロードキャスト機能

Notesクライアント

NotesのユーザーインターフェースからSametimeの機能を利用することができる
 参加者のリストとチャット機能

その他のSametimeにアクセス可能なクライアント

Microsoft NetMeeting
 T.120に対応したクライアント

Sametime コネクトクライアント

- 2種類のSametimeコネクトクライアントが存在
- デスクトップ用Sametimeコネクト
 - ◆ Sametime server Download pageからインストーラをダウンロードできます
 - ◆ インストールが必要です
 - ◆ プロキシの設定などが必要になります
 - ◆ AOL instant Messengerをサポートします
- ブラウザ用Sametimeコネクト
 - ◆ Sametime server のURLよりWEBブラウザを用いてクライアントを起動することができます
 - ◆ HTTPのプロトコルでアクセスすることができれば、特に設定は必要ありません
 - ◆ WEBベースでアクセスした場合、AOL instant Messengerはサポートされません

Notes: Sametime コネクトクライアント

Sametimeコネクトクライアントは2種類存在します。ひとつはインストーラを用いてローカルのコンピュータにインストールするデスクトップ用のSametimeコネクトクライアントです。もうひとつは、HTTPアクセスからJAVAアプレットをダウンロードし、WEBベースで使用できるブラウザ用Sametimeコネクトです。

デスクトップ用Sametimeコネクトクライアントを導入し、アクセスする

Sametime server Download pageからインストーラをダウンロードできます
ファイアウォールなどを用いている場合には、プロキシの設定などが必要になります
AOL instant Messengerのサーバーにアクセスすることができます

ブラウザ用Sametimeコネクトを用いてWEBベースでアクセスする

Sametime server のURLよりWEBブラウザを用いてクライアントを起動することができます
HTTPのプロトコルでアクセスすることができれば、プロキシなどの設定は必要ありません
WEBベースでアクセスした場合、AOL instant Messengerはサポートされません

ミーティングの機能

- ミーティングにおけるアウェアネス
- ミーティングルームチャット
- ホワイトボード
- 画面・アプリケーションの共有
- 画面の制御を他の参加者に許可
- Q & A・投票機能
- 挙手機能
- Webページの送信機能
- オーディオ/ビデオ機能
- 発言者



Notes:ミーティングの機能

- ミーティングにおけるアウェアネス**
ミーティング参加メンバーと接続状況を知ることができる
- ミーティングルームチャット**
ミーティング参加者全員にチャットメッセージを送信
選択した参加者に個人的なチャットメッセージを送信する
ミーティングに使ったチャットはテキストファイル形式で保存可能
- ホワイトボード**
添付ファイルの表示、描画や文字入力
ホワイトボードに添付するファイルは予約ミーティングの作成時に指定
ホワイトボードの保存
- 画面・アプリケーションの共有**
他の参加者と画面を共有
画面の制御を他の参加者に許可
- Q & A・投票機能**
モデレーターがミーティング参加者にQ&Aを送信して回答をもらう機能
- 挙手機能**
ミーティング中に注目を集める目的で使用
- Webページの送信機能**
モデレーターはWebページを送信でき、参加者の画面上に自動的に新しいブラウザウィンドウが表示される
- オーディオ/ビデオ機能**
オーディオ、ビデオで通信が可能です
発言者に印がつき、マイクランプが点灯するので、誰が発言しているかが判別できます

ブロードキャストクライアント機能

- Sametimeブロードキャスト・クライアント(BC)
 - ◆ 一方向の情報伝達
 - ◆ BCはJavaアプレットである
- ミーティングルーム・クライアントとの相違点
 - ◆ インスタントメッセージングの送受信、チャットなどのインタラクティブな機能を持たない
 - ◆ 低い帯域幅とスケーラビリティの拡張
 - ◆ マルチキャストが可能なネットワークもサポートする
 - ◆ 会議に参加するユーザーは、ダウンロードの量が少なくて済む

Notes:ブロードキャストクライアント機能

Sametimeブロードキャスト・クライアント(BC)

一方向の情報伝達

ミーティング内容の一方向的な視聴のみに目的を特化

指定したプレゼンターのみがミーティングで発言できる

BCはJavaアプレットである

MRCと同様に、自動ダウンロードされてローカルのブラウザ環境にインストールされる

サーバー上に新バージョンがある場合には自動アップグレード

ミーティングルーム・クライアントとの相違点

インスタントメッセージングの送受信、チャットなどのインタラクティブな機能を持たない

低い帯域幅とスケーラビリティの拡張

マルチキャストが可能なネットワークもサポートする

会議に参加するユーザーは、ダウンロードの量が少なくて済みます

Sametimeプリントキャプチャー

ウィンドウズアプリケーション



ホワイトボード



Notes: Sametimeプリントキャプチャー

Sametimeプリントキャプチャーを使用すると、ウィンドウズアプリケーションをホワイトボードに貼り付けることができます

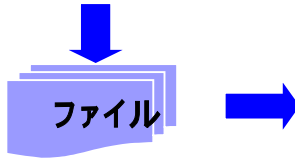
ホワイトボードを使用して、ミーティング中に添付ファイルを表示できます
 ミーティングをスケジュールするときに、[ファイル] タブを使用してファイルを添付することができます
 モデレーターは、ミーティング中にファイルを添付することもできます。
 Sametime プリントキャプチャーは Sametime ホワイトボードの表示用にファイルを変換する「バーチャルプリンタ」です

Windows アプリケーションファイルを Sametime ファイル へ変換します
 Sametime が自動的にホワイトボードの表示用に変換しないファイルを添付する場合には、プリントキャプチャーを使用します

Sametimeプリントキャプチャーの導入

- Sametime サーバーにHTTPコネクションでアクセスします
- "ダウンロード"をクリックします
- "Sametimeプリントキャプチャーのダウンロード"をクリックしダウンロードします
- ダウンロードしたファイルを実行し、インストールします
- インストールする言語(日本語)を指定します
- 次へをクリックすると自動的にインストールされます
- 最後に完了をクリックしてください
- 再起動が必要な場合があります

Sametimeプリントキャプチャーの使用



Notes: Sametimeプリントキャプチャー

Sametimeファイルへの変換

ホワイトボードにファイルを表示するために、専用の形式にあわせてファイルを変換する必要があります

Windowsアプリケーションのファイル>印刷をクリックします

プリンタの選択において、Sametime Print Captureを選択し印刷ボタンを押します

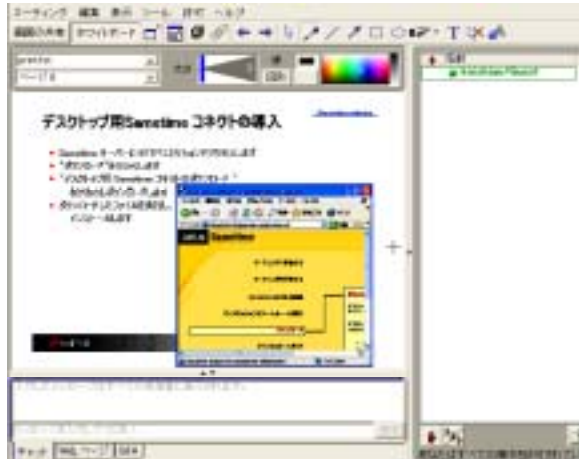
保存するファイル名を入力し、保存します

ホワイトボードへの貼り付け

新規ミーティングを予約する際に、ファイルタブ上の"ホワイトボードで使用するファイルを添付"で作成したSametimeファイルを添付します

ミーティングを開始すると、ホワイトボード上にWindowsアプリケーションが添付されます

Sametimeプリントキャプチャーの使用の例



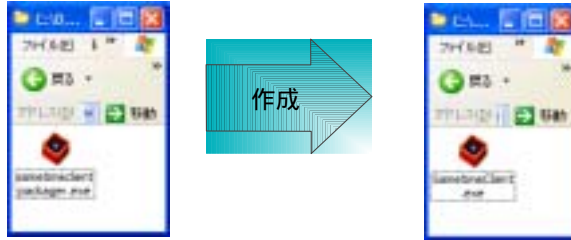
Notes: Sametimeプリントキャプチャーの使用の例

- ホワイトボード上に添付したファイルが表示されます
- ページがある場合にはページの切り替えを行います
- ページ上にメモを書くことができます(ホワイトボードの機能です)
- 添付ファイルが複数ある場合でも、切り替えることができます
- 添付ボタンからミーティング中でもファイルを添付することができます
- この機能は形式がミーティングの場合だけとなります
- 変換できるファイルの形式は以下のようになっています

ビットマップ (BMP)	CCITT G3 ファックス (.TIF)	GIF ファイル (.GIF)	CGM ファイル (.CGM)
HTML (.HTM, HTML)	ロータスアミプロ (.SAM)	ロータス PIC (.PIC)	JPEG ファイル (.JPEG, .JPG)
ロータス 1-2-3 (.WK3, WK4, 123)	ロータスフリーランスグラフィックス (.PRE, .PRZ)	ロータスワードプロ (.LWP)	Microsoft Excel (.XL*)
Microsoft Word (.DOC)	ペイントブラシ/DCX (マルチページ PCX) (.PCX)	PICT および PICT グラフィックス (.PCT)	ポータブルネットワークグラフィックス (.PNG)
Microsoft PowerPoint (.PPT)	RFT ファイル (.RFT)	リッチテキストフォーマット (.RTF)	Sametime プリントキャプチャーファイル (.FST)
Sametime ホワイトボードファイル (.SWB)	タグ付きイメージファイルフォーマット (.TIFF, .TIF, .EPS)	テキストファイル (.ASCII) (.TXT, .BAT, .INI)	Windows xタファイルグラフィック (.WMF)
ワードパーフェクト (.WPD)	ワードパーフェクトグラフィックス (.WPG)		

Sametime Client Packager

- Sametime Client Packagerとは
 - ◆ デスクトップ用Sametimeコネクットのインストーラをカスタマイズすることができます
 - ◆ CDROM2枚目のSametimeClientPackager/Japanese/Sametimeclientpackager.exeを使用します
- 作成したインストーラはSametimeサーバーに保管し、WELCOMEページからダウンロードできるようにします



Notes: Sametime Client Packager

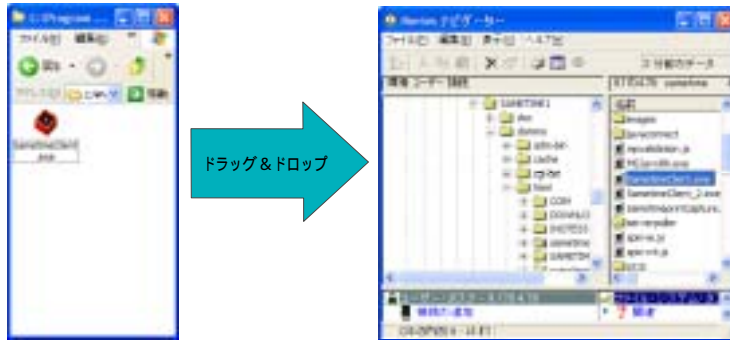
デスクトップ用Sametimeコネクットのインストーラをカスタマイズすることができます
 CDROM2枚目のSametimeClientPackager/Japanese/Sametimeclientpackager.exeを使用します
 作成したインストーラはSametimeサーバーに保管し、WELCOMEページからダウンロードできるようにします

カスタマイズできる項目

- Sametimeコネクットインストーラを作成するフォルダを指定します
- Sametimeコネクットをインストールするフォルダを決めます
- インストールされるパッケージを選択します
 - 1.5 compatibility for data sharing
 - Directory Browsing
 - AOL Instant Messenger compatibility
 - Sametime Plug-in for Microsoft NetMeeting
- 自動ログオンするかどうか
- 常駐Sametimeを起動するショートカットを利用するかどうか
- Sametimeサーバー名、Sametimeコネクットポート、ミーティングポート
- コネクションのタイプ
 - Sametimeプロトコル、HTTPプロトコル、ブラウザのセッティング、プロキシの使用
 - AOL Instant Messengerサーバー名、ポート、プロキシのタイプ
- ユーザーがサーバーやプロキシの設定を変更できるかどうか
- サーバー接続のタイムアウトの時間設定
- インストール後に再起動のメッセージを出力するかどうか

Sametime Client Packager

- 作成したデスクトップ用SametimeコネクティンストーラをWELCOMEページに保管します
 - ◆IFS上の”ドミノサーバーディレクトリ/domino/html/Sametime/SametimeClient.exe”にコピー
- コピーしたSametimeClient.exeのPermissionのアクセス権を変更します



Notes: Sametime Client Packager

作成したデスクトップ用SametimeコネクティンストーラをWELCOMEページに保管します

IFS上の”ドミノサーバーディレクトリ/domino/html/Sametime/SametimeClient.exe”にコピーします

iSeriesナビゲーターを開き、iSeriesサーバー>ファイル・システム>/Rootを開きます

”ドミノサーバーディレクトリ/domino/html/Sametime/”を開きます

作成した”SametimeClient.exe”をドラッグ&ドロップでコピーします

コピーしたSametimeClient.exeのPermissionの所有者を変更します

iSeriesナビゲーターで先ほどコピーしたSametimeClient.exeを右クリックし、許可をクリックします

SametimeClient.exeの許可のウィンドウが現れます

所有者はコピーしたユーザーになっているので、所有者をクリックし、所有者の変更を行います

新規所有者の選択内で”全てのユーザ”を開き、Qnotesユーザーを選択し、”OK”ボタンを押します

”現行の所有者から全ての許可を除去します”はチェックしたままにしておいてください”public”ユーザーの除外をチェックし、権限を除外します

つまり、Qnotes以外のユーザーはこのファイルにアクセスできなくなります

OKボタンを押して適用してください

作成したデスクトップ用Sametimeコネクティンストーラがダウンロードできるようになっています

SametimeサーバーにHTTPアクセスを行います

WELCOMEページにおいて、ダウンロードを選択します

”デスクトップ用 Sametime コネクティンストーラのダウンロード”をクリックし、インストーラをダウンロードします

このインストーラはSametime Client Packagerによって、サーバー名や、インストールフォルダなどがカスタマイズされています

Sametime Installer for Secure Desktops (SISD)

- ミーティングクライアント、ブロードキャストクライアント、ブラウザ用 SametimeコネクトなどはJava Appletです
- Sametime Installer for Secure Desktops(SISD)はこれらのアプレットをローカルにインストールします
- インストールされるアプレット
 - ◆ Sametime Connect for browsers
 - ◆ Sametime Meeting Room client
 - ◆ Sametime Broadcast client
 - ◆ Sametime Directory applet
- アプレットを実行することのできないユーザーもSISDをインストールすることで、ミーティングなどの機能を使用することができます

Notes: Sametime Installer for Secure Desktops (SISD)

ミーティングクライアント、ブロードキャストクライアント、ブラウザ用SametimeコネクトなどはJava Appletです
そのため、クライアントはこれらのクライアントを使用するときにモジュールをダウンロードして使用します
しかし、これらのモジュールは非常に大きいためにネットワークが遅い場合には非常にネックになります
Sametime Installer for Secure Desktops(SISD)はこれらのアプレットをローカルにインストールし、ダウンロードすることなく

実行することができます
インストールされるアプレット
Sametime Connect for browsers
Sametime Meeting Room client
Sametime Broadcast client
Sametime Directory applet

また、アプレットを実行するには権限が必要になります、アドミニストレーターによって、アプレットを実行できない設定になっているユーザーにはこれらのクライアントは実行することができません
SISDを用いてローカルにインストールしておくことによって、全てのユーザーが実行できるようになります

SISDはCDROM2枚目のSecureDesktop¥SametimeInstallforSecureDesktops.exeを実行してインストールします

参考情報

- Lotus Developer Domain
 - ◆ <http://www-10.lotus.com/ldd>
- Lotus Developer Domain Sametime
 - ◆ <http://www-10.lotus.com/ldd/products.nsf/products/Sametime>
- Lotus Sametime
 - ◆ <http://www.lotus.com/products/lotusSametime.nsf/wdocs/homepage>
- Lotus Sametime3.0 日本語
 - ◆ <http://www-6.IBM.com/jp/domino07/lotus/home.nsf/Content/Sametime>
- Lotus Sametime for iSeries
 - ◆ <http://www-1.IBM.com/servers/eserver/series/Sametime/>
- 日本語のドキュメント
 - ◆ <http://www-6.IBM.com/jp/domino07/lotus/home.nsf/Content/ldd> からドキュメントライブラリーをたどることで日本語版システム管理者ガイドをダウンロードできます

Notes:参考情報

- Lotus Developer Domain
 - <http://www-10.lotus.com/ldd>
LDDのホームです。ロータス製品の情報を得ることができます
- Lotus Developer Domain Sametime
 - <http://www-10.lotus.com/ldd/products.nsf/products/Sametime>
LDDからSametimeの情報を得ることができます
- Lotus Sametime
 - <http://www.lotus.com/products/lotusSametime.nsf/wdocs/homepage>
Sametimeの情報を得ることができます
- Lotus Sametime3.0 日本語
 - <http://www-6.IBM.com/jp/domino07/lotus/home.nsf/Content/Sametime>
日本語の情報を得ることができます
- Lotus Sametime for iSeries
 - <http://www-1.IBM.com/servers/eserver/series/Sametime/>
iSeries関連のSametimeの情報を得ることができます
- 日本語のドキュメント
 - <http://www-6.IBM.com/jp/domino07/lotus/home.nsf/Content/ldd> からドキュメントライブラリーをたどることで日本語版システム管理者ガイドをダウンロードできます